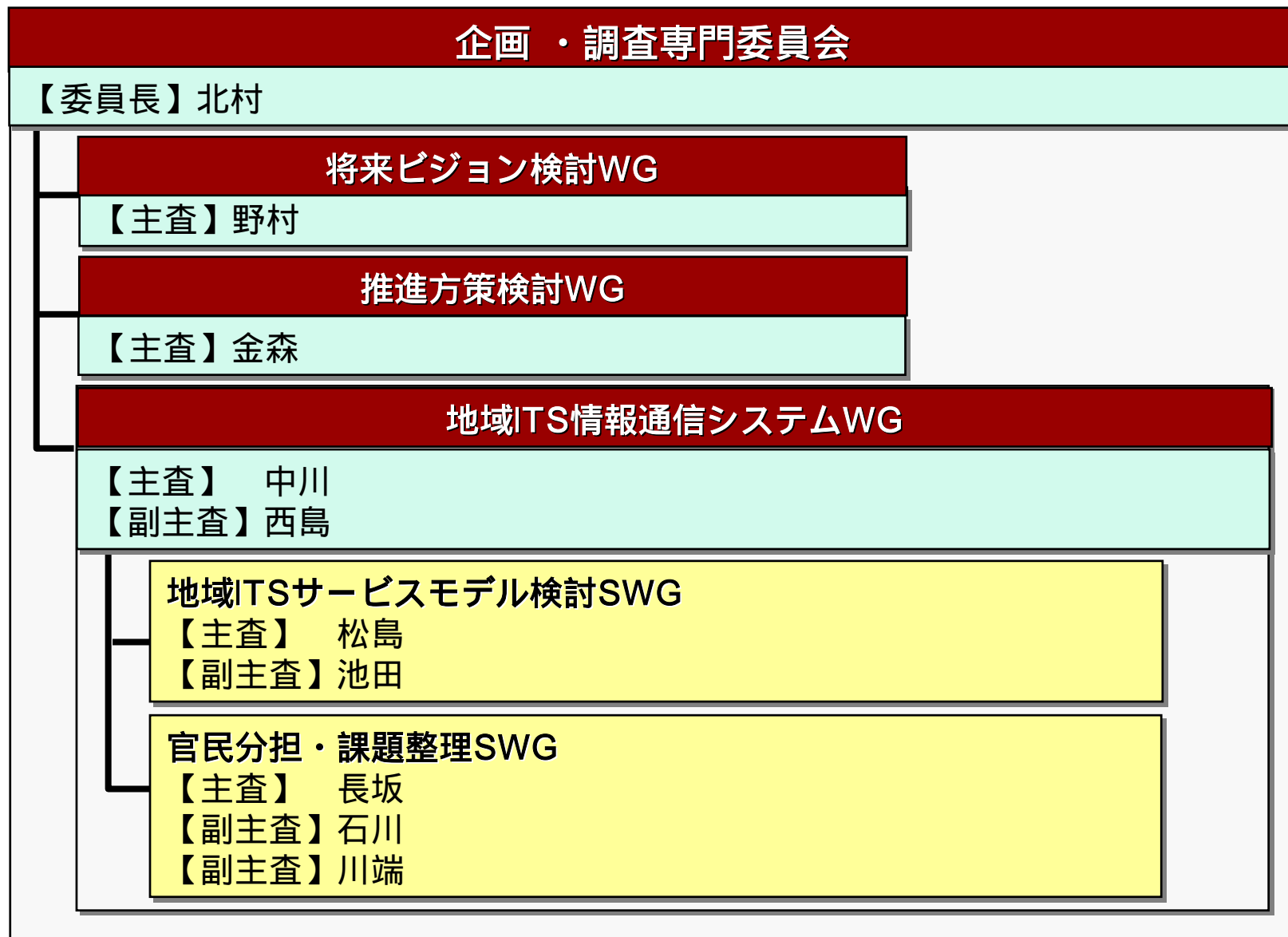


平成13年度活動報告について

企画・調査専門委員会

1 . 企画・調査専門委員会の推進体制



2 . 将来ビジョン検討WGの活動状況（1）

将来社会動向、ニーズ、技術動向の3つのパートに分けて調査・検討を行い、これを基にITS将来ビジョンハンドブックを作成した。本ハンドブックはCD-ROM化する予定。

将来ビジョン検討WG

将来ビジョンのフレームワーク案と各SWGの分担についての検討

3つのSWGがテーマ毎に分担し、将来社会動向検討SWGがハンドブックとしての取りまとめ役を担当

- (1) 将来社会動向検討SWG（とりまとめ担当）
- (2) ニーズ調査検討SWG
- (3) 技術動向検討SWG

2 . 将来ビジョン検討WGの活動状況（2）

ハンドブック（4章構成）について

（第1章）

人口動態や外国人の入国者数推移、レジャー時間及び支出 等の公的な統計数値から将来の社会動向を演繹し、I T S に影響を与えうる社会の動向を広く捉えた。

（第2章）

「I T S 情報通信システムのアプリケーション」39種から22種を選んで行ったニーズ調査の定量的な結果を紹介。

（第3章）

研究開発部会の報告書を元に情報通信の技術動向について記載。

（第4章）

第1章、第2章で検討した将来の社会展望、ニーズ考察とI T S の172のサブサービスとの対応をとることで、I T S が対応すべき社会的な要請及びニーズの強いサブサービスを明らかにし、一方、I T S に係るシステムアーキテクチャから、172のサブサービス毎に適用し得る通信メディアを整理した。両者から社会的要請の高いニーズの強い情報通信メディアを明らかにした。

3 . 推進方策検討WGの活動状況

I T S 情報通信システムの推進に向けた、社会・法制度上の問題点・課題への対応策の検討を行った。

研究開発部会各専門委員会の技術動向報告書、将来ビジョン検討WGの報告書をベースに、I T S モデル地区実験、各省庁の研究会等の状況を参考にしながら、総合的な推進方策の検討を行い報告書を作成した。本報告書はC D - R O M 化する予定。

- (第 1 章) 1 . 世界の取り組み状況
(米、欧、亜、世界会議、I S O、I T U)
- 2 . 日本の取り組み状況
(取組経緯、I T S モデル地区実験、関係省庁の動向)
- (第 2 章) 1 . 導入アセスメント
- 2 . システムの導入推移
- 3 . システムの導入条件

4 . 地域 I T S 情報通信システム W G の活動状況

地域 I T S 情報通信システム W G を新設（平成 1 3 年 9 月）

平成 1 2 年 1 2 月のスマートタウン研究会最終報告を受けて、地域のニーズに根ざした I T S 展開をより具体的に、スムーズに実現するための指針について検討を行った。

下記 2 つのサブワーキング（ S W G ）を設立し、本 W G 並びに 2 つの S W G の本年度の検討成果を報告書の形式に取りまとめた。

- ・ **地域 I T S サービスモデル検討 S W G**
コスト・便益試算方式と費用対効果検討について
- ・ **官民分担・課題整理 S W G**
官民分担・課題整理方式検討

4 . 地域 I T S 情報通信システム W G の報告書概要 (1)

生活に密着する『IT革命』の象徴となる地域ITS

- 地域ITSは企画段階から展開の段階へ
 - モバイル環境からのインターネットアクセスの素地の成熟
 - カーナビの普及、ETCの実用化とITSは進展するも、生活に密着する様々な複合的サービスを特徴とする地域ITSの実現までには至っていない。
 - 地域ITSを推進する官民それぞれが、展開の際に共通の土台となるものが必要

地域ITSのリファレンスモデル

- 検討の視点
 - リファレンスモデル (参考書)
 - 費用便益分析、官民分担・課題整理に関して地域ITSサービスモデルを用いて考察し、実展開時の指針として用いる
- リファレンスモデルの活用
 - 地域ITS導入後に実現される社会についての共通認識の形成
 - 地域ITSに係る具体計画の策定

4 . 地域ITS情報通信システムWGの報告書概要 (2)

地域ITSサービスモデルによる複合サービスの提供

- 参照した都市の課題、特性から、最適なサービスを抽出

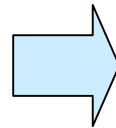
参照都市群

地域特性：人口、気候

交通特性：公共交通、道路交通

課題、スマートタウンイメージ

対象者、メリット



172個のITSサブサービス

- 課題 / 特性から、7つの地域ITSサービスモデルを導出

車両高密度都市	車両中密度都市	車両低密度都市
A1:公共交通利用支援モデル A2:物流環境支援モデル A3:沿道環境支援モデル A4:災害時緊急対応モデル	B1:渋滞解消モデル B2:安心・安全な街モデル	C1:歩行者支援モデル

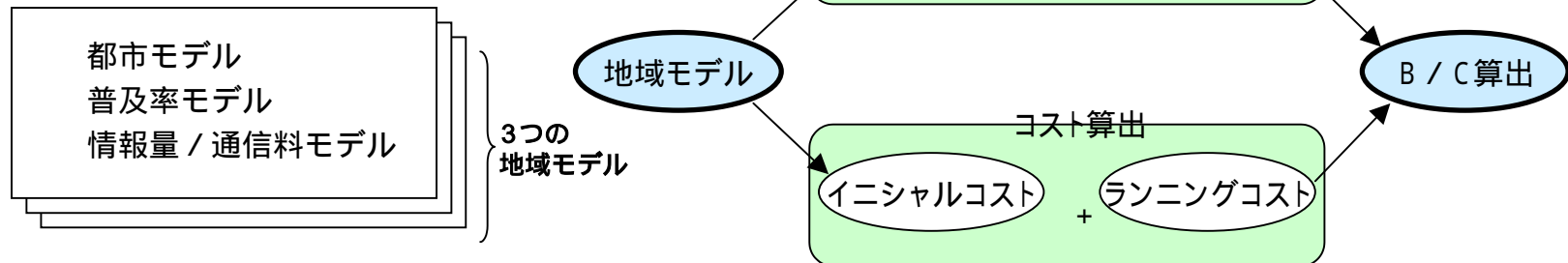
- 特定の地域においては、必要事項を取捨選択することで、各地域独自のモデルを策定できる

4 . 地域 I T S 情報通信システム W G の報告書概要 (3)

地域ITSにおける費用便益考察

- 費用・便益検討フロー

- 規模に応じた高中低3種類のモデル毎に下記モデルを設定し費用・便益を算出



- 7つの地域ITSサービスモデル毎にB/Cを導出

- 一つの事例として、地域ITSサービスモデルの導入の意義を検証

～ 便益 ～

- ・ 時間短縮による便益、走行費用低減による便益
- ・ 交通事故減少による便益、環境への影響改善など
(一般に公開されている資料・文献をもとに算出)

～ 費用 ～

- ・ **イニシャル費用** (端末・路側機費用、情報センター費用など)
- +
- ・ **ランニング費用** (通信費、コンテンツ費用など)

4 . 地域 I T S 情報通信システム W G の報告書概要 (4)

地域ITSにおける官民分担の考え方について

- 官民分担の考え方 以下の2つの軸を設置し、評価項目によりマッピングすることで分担のイメージが得られる

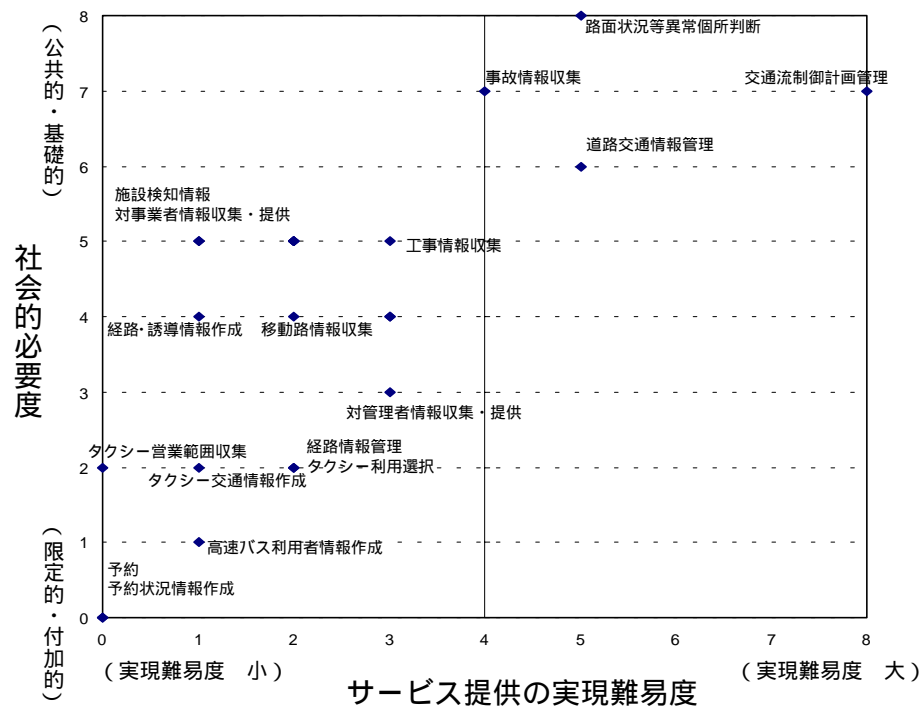
評価軸 X 市場形成・発展に対する障壁（サービス提供の実現性）

評価項目：技術的難易度、投資規模、ルール上の障壁、市場メカニズム

評価軸 Y 各サービス（機能）の性質による社会的位置づけ（社会的意義、必要性等）

評価項目：メリット享受者の特定可否、行政目的との合致性、社会基盤整備、公共の福祉

評価結果（C-1：歩行者支援モデル）



右上次元寄り：公共セクタ
左下次元寄り：民間セクタ